平成30年度　伊井小学校　学校評価書（総合）

No.1

項目	重点目標	具体的取組	評価の観点	評価者	目標指数（%）	H30前期（%）	H30後期（%）	成果と課題	改善策・向上策	学校関係者評価
確かな学力	1　主体的・対話的で深い学びの視点に立つ授業改善	主体的な学びの視点に立つ授業改善	子どもたちが授業に主体的に取り組むように努めた	教職員	90	100	100	教師による子どもを中心とした授業改善が浸透し、子どもたちもやる気をもって授業に参加している。 児童の主体的な授業は、オープンスクールなどでも公開しており、保護者にもその様子が伝わっている。	新学習指導要領の主要なテーマ「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、授業の中で、ペア学習、グループ学習を計画的・効果的に取り入れた協働の学びを通して、伝え合い深め合う学びを推進できるよう、今後も授業改善を行っていく。	学校での取組は、理解できる。学力向上には読書量も影響するようだ。
			授業に主体的に取り組んだ	児童	90	97	99			
			学校は子どもたちが授業に主体的に取り組めるよう工夫している	保護者	90	99	96			
	2　わかる授業・魅力ある授業の創造	わかる授業・魅力ある授業の創造に努める。	わかる授業に努めた	教職員	90	100	100	教師の創意工夫による授業改善が、子どもたちや保護者の高い評価につながった。子どもたちは、その日学習した内容について分かったと感じているようだが、少し日が経って既習内容を振り返るとできなくなる児童もおり、課題となっている。	基礎・基本的な学習の定着はもちろんのこと、既習内容を活用する力を高めていく必要がある。本校の学力分析を行うと、発展・応用問題になると正答率が大きく下がる傾向にある。活用力の向上に向けて、発展的な課題や活用力を問う問題に取り組んでいきたい。	
			日々の授業がわかった。	児童	90	99	99			
			子どもたちは授業がわかっている。	保護者	90	93	95			
	3　家庭学習の習慣化	家庭学習の時間の目安（1-3年30分4年以上学年×10分）を設定し、家庭学習のあり方を工夫する。	家庭での学習の指導を継続的に行った。	教職員	80	100	100	学力向上週間などの実施により、どの児童も家庭学習の目安の時間、学習する習慣化が定着しつつあり、前期は大きな成果が見られた。児童クラブとも連携を行い、低学年の児童は児童クラブでも家庭でもしっかり学習に取り組むようになった。高学年においては、自主学習に取り組む児童が増えてきているが、後期はゲームに夢中になる児童が増え、時間いっぱい家庭学習に取り組めない現状が生じた。保護者においては、後期も変わらない結果が出た。	普段の家庭学習の定着はもちろんのこと、年3回の学力向上週間を実施し、学習カードを配布してさらなる家庭学習の習慣化をめざす。その際保護者にも毎回学習状況をチェックを依頼するなど、連携した取組を行っていく。 高学年において、オンラインゲームが流行り、家庭での学習時間を全く取らない現状を課題とし、各家庭でのスマートルールを徹底し、毎月1回のノーメディアデーを実行させることが重要である。	自主学習にどんなことをすればよいのかわからない子もいる。しかし、示し方が不適切だと強制になってしまう。
			家庭での設定した学習時間を達成できた。（週4日以上）	児童	80	88	△79			
			子どもたちは設定時間、家庭学習に取り組んでいた。	保護者	80	△76	△75			
	4　読書活動の充実	読書に親しむための読書の推進	読書指導に継続的に取り組み、読書習慣の向上を図った。	教職員	80	100	100	教師は継続的に読書指導を行っている。児童の机の横に、読める本を袋に入れていつでも本を読めるよう指導しているが、児童の設定目標に達していない。とくに読書月間が11月に実施されたが、数値が下がっている現状を課題としなければならない。さらに、保護者の評価が低く、今後も保護者を巻き込んだ読書指導を推進しながら、読書の大切さを継続的に伝えていく必要がある。	・月曜の朝学習だけでは読書量は少ない。金曜読み聞かせ以外の週も読書活動が望ましい。（現在は英語活動） ・読書強化週間を決めて、大休み（業間）は全学年で静かに本を読む活動を取り入れる。 ・継続的に図書掲示委員会の活動や読書月間の取組を通して読書への意欲を高めていく。特に教師の読み聞かせは大変好評であった。今後さらに教師による本の紹介等を取り入れる。さらに、図書に関する掲示など環境面にも配慮していく。 ・誤解がないよう、アンケート項目の文言を児童によりわかりやすくする。	読み聞かせは、読書指導に有効である。 家庭でゲームをやることと家庭での読書は関連がある。合わせて指導していかなければならない。
			読書に継続的に取り組むことができた。	児童	80	△75	△69			
			家庭において読書に親しむために、読書に関して話し合う機会を持った。	保護者	80	△48	△52			
豊かな心	5　思いやりの心の育成	あいさつの習慣化推進	児童に対して声をかけながら挨拶指導を継続して行った。	教職員	90	91	100	学校生活の中であいさつはできていると思われる。しかし、急な来客へのあいさつなど、相手や場に応じたあいさつなどは十分とはいえない。そのようなあいさつは、家庭や地域でも十分ではないと思われる。家庭や地域の協力が必要だ。	お客さんへのあいさつなどについて、どのようなあいさつの仕方がよいのか児童に考えさせながら指導していく。 廊下ですれ違うたびにあいさつをするよう指導したところ、あいさつが更に向上した。どんどんあいさつすることがよい結果に結びつくようだ。	あいさつはよい。しかし、家庭や地域ではできない場合も多い。不審者に対する指導もあって、あいさつ指導が難しい面もある。大人からのあいさつ（声かけ）も大切だ。基本的に大人が見本を示さなければいけない。
			「おはようございます」「ありがとう」等のあいさつを自分から行った。	児童	90	94	97			
			子どもたちは自分から「おはようございます」「ありがとう」などのあいさつをしていた。	保護者	90	△84	95			

項目	重点目標	具体的取組	評価の観点	評価者	目標指数（%）	H30前期（%）	H30後期（%）	成果と課題	改善策・向上策	学校関係者評価
豊かな心	5　思いやりの心の育成	楽しい学校生活	学校生活が楽しくなるよう努めている	教職員	90	100	100	全体として、子どもたちにとって楽しい学校生活になっているようだ。しかし、1，2名の児童は楽しいと思っていない。その原因を探っていかなければならない。	同学年での活動、異学年との活動を今後も続け、いろんな児童とふれ合う機会を充実していく。個人面談等を通して、100%を目指していきたい。	学校生活が楽しくないと言っている児童もいるようだが、みんなで活動することは楽しいと言っている。みんなで活動することは重要だし、学校生活を楽しくする有効な手段だ。
			学校に来るのが楽しい	児童	90	97	94			
			子どもたちは学校へ行くのが楽しいと思っている	保護者	90	93	95			
		みんなで取り組む活動	グループ活動やふれあい班活動が楽しくなるよう努めている	教職員	90	100	100	みんなで取り組む活動に楽しさを感じており、その中で思いやりの心も醸成されていると思われる。	小規模校であることを生かし、全校で取り組む活動を行っていく。その中で、児童が企画・運営する活動や遊びを増やしていく。生活体育委員会主催のドッジボール大会は縦割り班で行い、大変盛り上がった。	
			友だちやふれあい班での活動は楽しい	児童	90	99	99			
			子どもたちは友だちやふれあい班での活動を楽しいと思っている	保護者	90	100	96			
		思いやりの心	相手を思いやり親切にする指導を継続して行った	教職員	90	100	100	同学年、異学年ともに仲良く活動ができており、その中で思いやりの心が見られる。前期、保護者の数値がやや低いのは、家庭で思いやりのある様子が見られないのかもしれないが、学校での活動の様子がわからないことが原因かも知れない。	今後も道徳教育を推進していくと共に、様々な活動の中で思いやりの指導をしていく。また、同学年の活動、異学年での活動の様子を広報していく。また、学校公開日に全ての学級で道徳の授業を公開した。	同学年、異学年での交流はよい。特に最近少子化で子どもたち同士の遊び（ふれあいが）減ってきているので。
			相手を思いやり親切にしている	児童	90	96	96			
			子どもたちは相手を思いやり、親切にしている	保護者	90	△82	91			
	6　いじめ不登校の防止	児童理解	児童理解に積極的に努めた。	教職員	100	100	100	アンケートを基にした教育相談を年3回実施し、保護者にもアンケートを実施している。普段から気になる児童を中心に声かけを行っているが、じっくり時間をかけて話を聞いてあげられていない。そのことが、満足度が100%にならない原因かもしれない。	今後も、児童・保護者双方にアンケートを実施した上で教育相談を行っていく。また、課題のある児童に関しては職員で情報を共有し、職員みんなで声かけを行っていくことで、いじめの早期発見早期対応に取り組む。 お互いの活動の良い点を認め合う取組はいじめをなくすことに効果があると思われる。を今後も継続し行っていく。	児童と教職員の信頼関係が大切だ。信頼関係があればいくら厳しく指導してもよいと思われる。
			先生は、自分のことを気にかけたり、話を聞いてくれたりする	児童	100	△93	△93			
			先生は、児童のことを気にかけたり、話を聞いてくれたりする	保護者	100	△92	△91			
	7　基本的な生活習慣の育成	早寝・早起き・朝ごはんの指導	早寝・早起き・朝ごはんの指導を継続して行う	教職員	90	100	100	ごく少数を除いて、全体としては生活習慣が身についている。しかし、スポーツ少年団や塾に通う児童はどうしても帰りが遅くなりがちで、「早寝・早起き」が難しくなっているようだ。	児童に保健指導を行うと共に、学年便りや保健便りで、保護者にもそれらの大切さについて啓発を図る。課題のある児童には、保護者会等で保護者に改善を依頼する。ゲームのやり過ぎにならないよう外部講師を招いて指導していただいた。	どうしても、スポーツ少年団の活動等で、遅くなる児童はいる。そんな児童は、翌日学校の学習等に影響がある。スポーツ少年団の指導者の都合もあるので、直ちに改善することは難しいかもしれない。
			早寝・早起き・朝ごはんに毎日取り組む	児童	80	89	92			
			子どもたちは早寝・早起き・朝ごはんに毎日取り組んでいる	保護者	80	92	91			
健やかな体	8 主体的に取り組む運動習慣の育成	授業や業間体育でめあてを持って、運動に取り組む	授業や業間体育での記録の伸びるよう励ましながら指導した。	教職員	90	100	100	じぶんの努力や成績ののびがわかるワークシートを活用し、児童への意欲付けができていた。そのため、秋のマラソン大会の前には、自主的に練習する児童もいた。 各学年ごとに目標を示したことで、自主的に縄跳びの練習に取り組む児童も見られた。	今後も努力や成績ののびがわかるワークシートを活用し、意欲を高めていく。さらに内容に変化をつけて、飽きさせないようにしていく。 各学年の目標を保護者にも示したことが、児童の意欲喚起につながった。	とてもよい。今後も自主的・意欲的に体力向上に励めるよう工夫していって欲しい。
			授業や業間体育でめあてを持って体力向上に取り組めるよう努めた	児童	90	92	95			
			学校は、子どもたちがめあてを持って体力向上に取り組めるよう努めている	児童	90	93	95			

項目	重点目標	具体的取組	評価の観点	評価者	目標指数（%）	H30前期（%）	H30後期（%）	成果と課題	改善策・向上策	学校関係者評価
健やかな体	9 安全教育の推進	安全に気をつけて生活する	安全に気をつけて生活するよう継続的に指導する	教職員	90	100	100	幸い大きな怪我も少なく、安全に対する意識も低くないと思われる。小さい傷は減っていないので、今後も機会を捉えて安全指導を行い、大きな怪我がないようにしていかなければならない。また、防災に対する意識向上にも引き続き取り組んで行かなければならない。	常日頃の安全指導に加えて、保健便りや掲示物等で啓発を図っていく。体育の授業などでは、場面をとらえて安全について指導していく。防災訓練などでは、その意義を再確認させ、防災に対する意欲を高める指導を行っていく。子どもたちは、夢中になると安全についても忘れてしまうことがある。継続的な指導が必要である。	本校では、児童虐待はないとのことだが、ネグレクトなども要注意である。油断せずに見ていって欲しい。
			安全に気をつけて生活する	児童	90	99	96			
			子どもたちは安全に気をつけて生活していると思う	保護者	90	95	99			
家庭・学校・地域の連携	10 スマートルール推進	スマートルール推進	スマートルールをもとに指導している。	教職員	80	86	100	ルールを守っているという児童と保護者に大きな開きが生じている。実際、後期に入って家庭学習の時間が減った原因にゲーム機やインターネットの使用に夢中になった状況がある。情報モラルの徹底と各家庭におけるルールをづくりが大きな課題である。	児童の家庭におけるメディアの使用状況（you-tube、ゲーム機、オンラインゲーム等）について、アンケート等で現状を知り、情報モラル、スマートルールについて指導の場をしっかりと持つ。また、児童だけでなく、保護者も一緒になって、インターネット掲示板やSNSの危険性、生活への弊害について理解を深めていけるような情報モラル教室や研修会を実施する。そのためには学校と警察、青少年育成協議会などの外部機関との連携が大切である。	家庭、学校だけの取組だけでは十分ではない。講師を迎えて指導してもらうことも有効である。保護者もメディアから離れられない。どう家庭でのルールを（規律）作っていくかだ。ゲームから無理矢理離なすことはできないが、次の日に影響が出るようでは、問題がある。
			TV、ゲーム、インターネットはルールを守って、見たり使ったりしている。	児童	80	92	94			
			家庭のルールをつくり、守るよう取り組んでいる。	保護者	80	81	△73			
	11 学校の情報発信	学習や生活の様子を伝えるための工夫	お便りやホームページなどを通して学習や生活の様子を伝えている。	教職員	80	100	100	保護者から高い評価を得た。今後も継続してお便りやホームページをなどを通して学習や生活の様子を伝えていきたい。	お便りがカラーで印刷されうようになり好評を得ている。今後も児童の学校の様子の写真や作文など、工夫して発信していきたい。ホームページを通して学校の様子を楽しみにしてご覧になっている保護者、地域の方も多い。今後も適宜更新していきたい。	ホームページは子どもたちの様子がよくわかる。みなさんが見ているとよいのですが。
			お便りやホームページなどを通して子どもたちの学習や生活の様子がわかる。	保護者	80	94	97			
	12 地域との連携の推進	地域との連携	地域の教育資源や人材を活用した教育活動を進めている。	教職員	90	△87	△89	学校行事では、サポート会をはじめ多くの人材を活用している。また、5年生の農業体験におけるサポート体制やお茶、お花などのクラブ活動において、充分な地域の人材活用ができている。	授業の中においては低学年において、昔遊びや地域探検など、地域の人材活用場面が多いが、中高学年においてはあまり多くない。農業だけでなく、周りにある工場との連携や地域の伝承についてもっと地域人材を活用できる場面を発掘していきたい。	いろんな方々と触れ合うことは大切である。今後も努力していって欲しい。
			学校は、地域の教育資源や人材を活用した教育活動を進めている。	保護者	90	99	99			